戦争は『破壊』しか生みません

シリーズ「体験者は語る」

安倍政権の暴走は戦争する国へ加速しています。そこで、戦争を体験した方の声を集めて掲載することにしました。読者のみなさんもこの機会に胸に秘めた思いを寄せてください。シリーズで掲載していきます。昨年亡くなられた、江戸川台の山田幸子さんからお預かりしていた戦争体験の遺稿も紹介します。

男は戦争　女子供は働き手
「明日生きていたらね」

私は神田神保町で生まれました。男性はみんな戦争にかり出され、残された女と子供は、みんな働き手なのです。

その頃すでに米は配給制、衣料品はキップ制で自由に買えない時代。兵器をつくる為に金属類のストーブ、銅製品、指輪、ネックレスなどなど供出するよう強制がありました。

私は菅場町というところまで、毎日通っていましたが、有楽町に爆弾が落ちて、家まで歩いて帰ったことも。

三月十日未明、B29が、何百機の編隊で、焼夷弾を落とし、油脂を六角筒に充填した焼夷弾が空中で破裂し、火の油が降ってくる、この大空襲は一夜にして十万人の命を奪い、家を失った人は百万人を超えたということでした。

四月十三日、夜中空襲、B29の盲爆で、高射砲の音がドンドンする。やっと防空壕に飛び込んだときは、焼夷弾がバラバラ落ちてきて、今夜は危ないと、おじいさんの手をひいて、母と学校へ避難しました。途中なんども壕に入ったりして、おじいさんはもう足がすくんで歩けない様でした。何時間かが経って空襲解除になったので、神保町の交差点まできたら、家は跡形もなく、広い道路の両側共、火の海で燃えあがっていました。こんなことが、目の前でおこっている恐ろしさで、足がふるえました。

私たちの町会は淡路国民学校で、お世話になり、そこで三日間、隣組の人達と寝起きを共にし大きなオムスビだの乾パンだのをいただいた。

それから母の実家の厚木へ行きました。そこでは機銃掃射があり、歩いている人目がけて撃ってきたり、実家では私のいとこの洋服が積んであるところに屋根を通って洋服まで、全部穴があいてしまった。

広島や長崎に原子爆弾が落とされて、自分もいつ死ぬかも知れない。でも死ぬことは一寸も怖くなかったのです。お友達と別れるときは「明日生きていたらね」とサヨナラしたことを思い出します。

最後の頃は、空襲警報がなっても防空壕に入らず、布団の上に寝ていました。

八月十五日戦争は負けて終わりました。

空襲がなくなって電灯を明るく灯した夜は忘れません。

戦後は食糧難

戦後は食糧事情がなお悪くなって、みんな栄養失調でやせ細り、オデキが出来たり、生き残っても生活するのが大変でした。

焼け跡にサツマ芋やカボチャをつくってサツマ芋のつるや、お茶ガラまで食べました。お弁当にもサツマ芋を持って行きました。

故　山田幸子さん

バラの花　今が盛りと咲き

私の原点は焼け野原

「戦後70年に再び軍靴の音が…」というと、それは少し言い過ぎではないかと言われます。しかし、今の安倍政権の暴走がいよいよ「戦争立法」を国会でとなると黙ってはいられません。若い自衛隊員が武器を持って海外の戦場に行く姿が現実のものになるからです。

私が生まれた本郷動坂の家は東京大空襲で焼失しました。戦時中は新潟の伯父の家にいましたので炎の中を逃げまわるようなことはありませんでしたが食糧難で空腹をこらえる辛さは記憶にあります。国民学校1年生の時でした。

戦後の焼け野原になった東京に父が私を連れてきて「お前が生まれた家がここにあったんだ」と指をさしながら言った姿は忘れられません。昭和12年生まれの78歳ですが私の原点はこの焼け野原にあります。

江戸川台　S・H

運動会で人殺し訓練・戦地での蛮行

今年は戦後70年の節目の年。戦争体験者も年々少なくなっているそうです。一方安倍政権は着々と戦争する国づくりへと突き進んでいます。

私は小学校2年生で終戦を迎えました。田舎に住んでいたので戦争の悲惨さは余り知りませんが、断片的に覚えていることをお話しします。

運動会で、先輩たちが藁人形を木刀で突き刺す人殺しの訓練も見ました。校庭には防空壕を掘ったり麦畑を作ったりと大変な時代でした。

戦争も激しくなり、仙台に爆弾が落とされ、夜空が真っ赤に染まっていました。また、野良仕事のご婦人が米軍の機銃射撃で殺されるなど、いよいよ本土決戦が迫ってきたのか、兵隊さんも我が故郷に駐留するようになりました。上官から物凄い剣幕で殴られた兵隊さんもおりました。そう言えば我々も廊下に立たされ、先生から全員ビンタ（平手でほっぺを殴る）の洗礼を受けたこともあります。これが軍国主義教育だったのですね。

私たちの年代は戦火を逃れ都会から多くの方が疎開してきました。よそ者といってみんなでいじめたこともあります。

私の兄は戦地から復員してきましたが、マラリヤにかかり、まもなく亡くなりました。南方で戦死した兵隊さんの6割が餓死だったそうです。

兄たちが戦地でどんなことをしたのか関心もあり、戦争体験の本をよく読みました。中でも日本軍が中国への侵略で行った、「三光」をご存じでしょうか。「焼きつくし」「殺しつくし」「奪いつくし」の例ですが、身ごもったご婦人のお腹の赤ちゃんを銃剣に刺して振り回すなど、想像を絶する蛮行を行ったことも証言されています。

戦争は人間を狂わせる

戦争は人間を狂わせます。数々の悲劇を生みます。恋人同士が引き裂かれ、家庭崩壊も招きます。

いかなる戦争も二度と起こしてはなりません。安倍政権のもと、憲法9条も危うくなっています。今こそ平和憲法9条を守るために世論の声を高めましょう。東深井　K

「毎年、保護費が引き下げられて、これからどうやって暮らせばいいの～」「7月には住宅扶助も引き下げ　長生きしてもつらいだけ」

流山市生活と健康を守る会（会長妹尾七重）発行の「ともだち班ニュース」に、こんな声がありました。

生活保護利用者の切実な訴えを受け、4月7日、日本共産党の辰巳孝太郎参議院議員が厚労委員会で住宅扶助削減中止を要求しました。

生活保護世帯の家賃＝住宅扶助費が7月から大幅に（世帯人数により2800円から1万8800円）削減されようとしています。住宅扶助基準が下げられれば、44万世帯（生活保護世帯の27％）が転居を迫られることになります。辰巳議員の追及に厚労省も認めています。

44万世帯が転居を迫られる
一人で悩まないで相談を

削減計画撤回は、憲法が認める、最低限度の生活権の侵害になります。

安倍政権による生活保護利用者締め付けに苦しむ方の強い味方、「生健会」の活動を、広く知らせ、一人で悩む人が無くなるように、声をかけて命を守りましょう。

「保護決定通知」に納得いかないときは「審査請求」ができます。

「住まいの確保は基本的人権」です。住宅の質がますます悪くなり、更にくらしに大きな負担が強いられることになる

あすなろ川柳

●ドローン規制
オスプレイなら
飛行自由？

ドローンの事故があちこちで、一方でオスプレイは我が物顔で首都の横田にまで配備

●切れ目なき
戦争法に
切れる国民

●アメリカ様
あなたとならば
どこまでも

安倍さんは恋する乙女か？
つける薬は国民の声